

10月20日 県民意見交換会（鈴鹿会場）概要

【教育的な視点】

(新博物館整備にあたり)これから学芸員の選考をされる場合には、専門性の視点だけでなく、若い人、子どもの教育の視点から指導者として素晴らしい方を願いたい。

学芸員は、開かれた博物館としてふさわしい利用者へのサービス精神旺盛な人を育てていただきたい。

学芸員を育てる話があったが、館長がコーディネイト役となることが必要であり、新博物館に際しても、博物館候補を早く決めるべき。

最近、ヘビ、クモなどを害のある生き物として嫌がられることがあるが、きちんと自然と人との共存ということを教育として教えていただきたい。

【総合の意味、自然系か歴史・文化系か】

質 審議会委員に自然系の委員がはいっていない理由

質 総合とあるが、自然と歴史・文化の割合をどのように考えているのか。

自然は、あるまを研究する、文化は、人がつくってきたもの、であるので、歩み寄らない部分がある。

総合というなら、斎宮歴史博物館、各地の資料館などの博物館には、人文系のものが多いため、これらをあわせて、総合とする考え方で、足りないものだけを作ればよい。だから、民間の日本カモシカセンターも閉園になったこともあり、自然史が足りないので、自然史の博物館を作ればよい。

現博物館の収蔵品が自然系以外のものがあるというのであれば、斎宮の横にでも収蔵庫をつくって、展示すればよい。

現在県内の博物館のなかで、自然系のものはほとんどないなかで、自然系のものを作るべき。

自然系博物館を求める請願というものがあったが、このことに何も触れていないのはどういうことか。

地域にさまざまな博物館などがあるのであるから、市町へ支援してもらったほうがよい。

総合博物館が、どっちつかずで、独自性のないものにならないようにしてほしい。自然と歴史・文化のバランスのことについて。

飯南町に森という場所があり、戦時中に韓国朝鮮人によって、鉱石を掘っていた。このことをみていくと、少しの鉱石をとるのに、なんと劣悪な環境でやっていたのかということが、戦争時の歴史的状況や岩石鉱物のこと、その時代の地域の人々の暮らしということをあわせて考えると見えてくる。このことから、「総合」ということには深い意味がある。ただ、集めて「総合」というのでは、だめ。教員が、三重県中フィールドワークして集めた岩石が今どこにも引き取ってもらえなくて、津高校に保管されているが、このままいくと散逸してしまう。

【公文書館の整備について】

古文書、公文書館機能を含めるとあるが、博物館と公文書館は性格が異なる。特に、公文書館は、閲覧が自由なのに対し、博物館では、閲覧が制限されるので、公文書館は独立して整備していただきたい。

【文化振興方針について】

博物館、図書館、美術館、生涯学習センターなどの連携による充実強化、一体的な機能発揮といったことが言われているが、これは大変難しいこと。

これはいままでも言ってきたことであり、いまさらいつているのがおかしいし、それだけ難しいということもいえる。今回は、その原因にしっかりメスを入れていただきたい。

三重の文化振興方針（仮称）（骨子案）の中身は、よいが、いつもこのようないいことを書いては、実現しないままとなっている。ぜひ、文化を支える財源、経済的な背景の担保について記していただきたい。

P D C Aサイクルとして、計画に基づく進行管理を図っていただきたい。

【博物館について（その他）】

マトリックス（たて糸よこ糸）は、機能のことであり、どういう人を集めてくるかによって違ってくる。ぜひ、動かす人のことを考えて、アウトリーチして他者と手をつないでいく学芸員などの人が必要。機能させる人の手配に注力してほしい。

コンテンツ産業に関して、三重で取組がされていないようなので、やってもらいたい。管轄は？

博物館の収蔵品に関する基礎的な調査、整理が必要である。

基本テーマをもつことが、必要である。

全体的な来年度以降のスケジュールを明確にしてほしい。

ハコモノ行政が批判されるなかであっても、20数万点の収蔵庫が必要であり、借金しても作るべきである。

建築に関して。金沢の21世紀美術館は、まわりにアサガオが一面に植えてあり見栄えがいい。（三重の場合も）コンクリート打ちっぱなしでもいいくらい、最低限必要なものを建てればいいと思う。

質 資料3「博物館に関する基本的な考え方」の内容は素晴らしいが、全体として実現できるのか。